

シュロダー グローバル市場見通し

2020年
10月

マルチアセット運用チームによる各金融市場の月次見通し

見通しの表示：++強気、+やや強気、0中立、-やや弱気、--弱気
矢印：対前月での見通しの引き上げ/引き下げ

株式	国債	社債	コモディティ（商品先物）
			
足元、新型コロナウイルス感染の再拡大を巡り、先行き不透明感が懸念材料ではあるものの、今後期待される、経済回復が支援材料と判断しています。	今後の利回り低下余地は限定的と考えると同時に、中央銀行の緩和姿勢の維持により、ボラティリティは低水準で推移すると考えます。	中央銀行による金融政策が、引き続き社債市場を下支えすると判断しています。ハイイールド社債よりも投資適格社債への選好度を高くしています。	今後見込まれる経済活動の回復は支援材料であるものの、バリュエーションの魅力度は低減したと判断しています。また、米大統領選挙を経て今後の財政政策の動向が明確化するまで、状況を見極める必要があると考えます。

資産クラス	分類	見通し
株式	米国	 継続する高い流動性のが引き続き支援材料と判断するものの、米大統領選挙の動向には注視する必要があると考えます。
	欧州	 欧州の多くの国で、新型コロナウイルス感染者数が上昇する中、感染防止のために取られている措置が経済活動の重しとなると考えます。
	日本	 経済回復の兆候が見られ始めている一方で、菅総理大臣による今後の政策方針を見極める必要があると考えます。
	アジア太平洋（除く日本）	 財政政策および金融政策の実施に加え、新型コロナウイルスのワクチン実用化への期待が支援材料と判断しています。
	新興国	 中国経済の回復、ドル安、堅調なコモディティ価格の推移が支援材料であると判断しています。

シュローダー グローバル市場見通し




2020年
10月

資産クラス	分類		見通し
国債	米国		米連邦準備制度理事会(FRB)による平均インフレ目標の導入を背景に物価が上振れる可能性もあることから、より短期の国債への選好を維持しています。
	欧州 (ドイツ国債)	 ↑	バリュエーションの魅力度は引き続き低く、今後のさらなる利回り低下余地は依然限定的と考えます。
	新興国 (米ドル建て)		相対的に魅力的と判断されるバリュエーションや米ドル安が支援材料と判断しています。
	新興国 (現地通貨建て)		ラテンアメリカやアジアはより高い実質利回りが期待されると考えることから、同地域には中期的に投資機会が存在すると考えます。
	インフレ連動債		FRBが一時的にインフレ率が2%を上回ることを許容する平均インフレ目標の導入したことから、当面は緩和的な金融政策が維持されると考えます。
投資適格社債	米国		クレジット・スプレッドのさらなる縮小の余地は限定的と考えますが、社債の発行額の水準は高水準で推移しています。
	欧州		バリュエーションの魅力度は、過去の水準から判断して低いものの、企業業績が市場予想を上回ったことなどによるファンダメンタルズの改善が支援材料と考えます。
ハイイールド社債	米国		財政・金融刺激策の実施は引き続き支援材料ではあるものの、ファンダメンタルズの観点から、欧州ハイイールド債に比べ魅力度は低いと判断しています。
	欧州		欧州で実施されている市場支援策が、発行体やファンダメンタルズにとって引き続き支援材料と判断しています。

シュローダー グローバル市場見通し

2020年
10月

資産クラス	分類	見通し	
コモディティ (商品先物)	エネルギー		ボラティリティの上昇が見込まれるほか、当面は供給/需要水準の観点から、魅力度が低下すると考えています。
	金		米国における分極化や、FRBによるさらなる金融緩和余地が不透明であるため、政策が明確化するまでは動向を見極める必要があると考えます。
	産業用金属		中国による需要が価格を下支えているものの、さらなる上昇には、中国以外による需要の上昇が必要となると考えます。

資産クラス	分類	見通し	
通貨	米ドル		国債のヘッジ機能が薄れていることを背景に、米ドルが持つヘッジ機能を考慮して見通しをやや強気に引き上げました。
	ユーロ		米大統領選挙を控え、ボラティリティの上昇が見込まれることに加え、新型コロナウイルス感染者数も上昇していることから、見通しを中立に引き下げました。
	日本円		国債のヘッジ機能が薄れていることを背景に、米中関係悪化リスクや経済停滞リスクに対して、日本円はヘッジ手段として機能することが見込まれます。

出所：シュローダー。社債に関する見通しは信用スプレッド(デレージョン・ヘッジを前提)の動きに基づくものです。ユーロと日本円は対米ドルの見通しとなります。

【本資料に関するご留意事項】 本資料は、情報提供を目的としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を意図するものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、内容の正確性あるいは完全性については、これを保証するものではありません。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。シュローダー/Schrodersとは、シュローダーplcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。